

占領下の日本における家庭科教育の成立と展開 (XV)

— CIE 教育映画『明るい家庭生活』の映像分析を中心に —

柴 静 子

(2002年9月30日受理)

The Establishment and Development of Homemaking Education in Japan under the Occupation (XV)
— Analysis on Image of CIE Educational Film, “FOR A BRIGHT HOME LIFE” —

Shizuko Shiba

In Japan under the occupation CIE of GHQ/SCAP produced and presented a lot of educational films to renew the mind of Japanese people. This report clears the features of CIE educational film, “FOR A BRIGHT HOME LIFE” which dealt with home project method in secondary homemaking education and kitchen improvement in the city house and farm.

The results were as follows:

1. CIE tried to work for the improvement of Japanese kitchen and the diffusion of the new educational method, “home project” through the production and presentation of film, “FOR A BRIGHT HOME LIFE” which was produced by CIE educationist, M. Williamson.
2. The assertion of the Agricultural Improvement Bureau of the Ministry of Agriculture and Forestry on the kitchen improvement was included into the film.
3. This study proved the excellence of the play and the image of “FOR A BRIGHT HOME LIFE”.

Key words: homemaking education, CIE educational film, “FOR A BRIGHT HOME LIFE”, home project

キーワード：家庭科，CIE 教育映画，『明るい家庭生活』，ホームプロジェクト

はじめに

筆者はこれまで、GHQ/SCAP（連合国軍最高司令官総司令部）のCIE（民間情報教育局）が立案・実行した家庭科教育政策の諸側面を考察することを通して、高等学校家庭科教育の成立過程を明らかにしてきた。一連の研究においては、GHQ/SCAP, CIE Records や日本側の一次資料を使用した文献研究に留まらず、聞き取り調査を実施し、また写真や映像の収集と分析を試みた。

このようなアプローチを取ったことで、高等学校家庭科のホームプロジェクトを映画化したCIE教育映画『明るい家庭生活』の日本語版と英語版の発見に至り、CIEが家庭科教育の重要な方法として推奨したホームプロジェクトの実際を映像を通して捉えることが可能になった。そこで、本研究においては、『明るい家庭

生活』の映像分析や関連文献の充実によって、CIEの教育政策であった映画による台所改善ホームプロジェクトの実際と意義を一層明らかにし、同映画に関するこれまでの研究¹⁾を発展させることを目的とした。

I. CIE教育映画『明るい家庭生活』の制作過程

先行研究においては、東京都立南多摩高校家庭科のホームプロジェクトを映画化したものがCIE教育映画『明るい家庭生活』であったこと、そして同校が文部省指定の家庭科ホームプロジェクト実験学校であり、家庭科主任の仙波千代を媒介にしてCIEや文部省と強い繋がりがあったこと、加えて、同校のホームプロジェクト実践がこの両機関のみならず全国の教育現場から

高い評価を受けていたことが映画制作の背景要因になったことを明らかにした。

ところで、映画『明るい家庭生活』の制作に当たって、CIEに映画化の企画書を提出したのはM. ウィリアムソン (M. Williamson) であった。ウィリアムソンは1949 (昭和24) 年7月に来日して以来、中等教育研究集会や家庭科研究会に参加するため各地を訪れていたが、そこで見た日本女性の抑圧された生活、取り分け調理に費やす時間の多さと台所設備の低位さに驚いた。それゆえ台所改善は日本人の急務の課題と考えていた。一方、高等学校家庭科においてはホームプロジェクトの導入が必須と信じていたので、この2つを合わせて、生活の合理化と家族関係の深化、そしてホームプロジェクト実践の推進をねらった映画の制作を企画した。

ウィリアムソンは、1950 (昭和25) 年3月に作成した企画書において、この映画をCIEが制作する必要性と内容の概略について、次のように記した。

1. 最近のCIE教育映画『腰のまがる話』が目玉の当たりに見せたように、日本のカマドは、女性の背骨を湾曲させる原因になっている。
2. 『明るい家庭生活』では、日本の保守的な考え方や伝統の重みの中で、2人の女子高校生が各自の家庭に変化をもたらす実行者として設定されている。彼女らは台所改善をホームプロジェクトのテーマとして決定した後は、教師の指導を得て行動に移る。
3. 映画の中では、親との討論の結果、学校の模範台所を親に見せることにしている。しかし、家庭の台所は学校のそれとは異なるので、引水、窓、換気、合理的な配置や動線の短縮といった問題を解決するための学習を2人の生徒にさせるようにしている。その際には教師の助言や図書館利用は有益である。また模範台所の研究は、自宅の台所改善計画では見落としていた点を明白にするのに役立つであろう。
4. このようにして、女子高校生の家庭の台所改善は、その完成に向けて一步一步進む。最後に近所の人たちが改善された台所に招かれてパーティが開かれる。
5. 最終的に、ホームプロジェクトはPTAで報告され、地域に広く影響を与える。このようにして、学校の家庭科が家庭生活の改善に大いに寄与し、その結果、主婦に家事以外の活動のための時間を与えることができるということを実際に示したのが『明るい家庭生活』である²⁾。

以上の映画制作企画書には、女子高校生のホームプロジェクトを通して日本の台所改善を試み、女性を長時間の繁雑な家事から解放したいと願うウィリアムソン

の熱意が込められていたように思われる。この企画書はCIEで了承され、映画の制作はCIE教育映画『タミーちゃんの一日』の日本語吹き替えを行った大泉映画株式会社に委託された。制作費としては約200万円が計上された³⁾。

映画の脚本は1950年3月中に作成され、4月から撮影が始まり、同年の10月20日にはCIE教育映画として全国公開された。映画が完成に至るまでの主な経緯は次のとおりである⁴⁾。

1950年3月7日、CIE事務所でウィリアムソンと大泉映画株式会社の制作者ナカイおよび脚本家小森静男が会合を持った。この日、高等学校の家庭科ホームプロジェクトを映画化するにあたり、東京都立南多摩高等学校を訪問し、仙波教諭の示唆を得るようというウィリアムソンの指示が出された。

ウィリアムソンが同校を舞台として推薦したのは当を得ていた。ナカイら映画制作者はこの学校を訪問し、何らかの援助や示唆を受けたのであろう。3月の中旬には、脚本の第1次案が早くも作られ、CIEの指導を受けたようである。そして、3月29日には、ウィリアムソンが不在の間、映画の進行を任されたCIE視覚教育係官F. B. ジャドソン (F. B. Judson) のもとにナカイらが訪れ、脚本の第2次案を提出している。当日のジャドソンの会議録には次のように記されている。

この映画は「いかに日本の台所を改善するか」ということをテーマとしており、(アメリカの豊かな生活を描いた) CIE教育映画を見た日本女性によって、最も頻繁に映画化が要求されている主題である。幸いにも東京にはいくつかの家庭科実験学校が設置されており、(ホームプロジェクトの) 研究が始められている。それらはこの映画で使われるだろう。脚本についての問題点は、都会と田舎の改善台所をいかに引き立てて見せるかということであり、この部分を書き直して、週末までには最終的な脚本を持参することで合意した⁵⁾。

この記録の前半は、多くのCIE教育映画が伝えたアメリカの驚嘆すべき豊かな生活、とりわけ台所設備の素晴らしさと食事室を中心として家族が楽しく集うあり様を目の当たりにした日本女性が、自分たちの暗くて不便な台所を改善し、家族と食事を楽しむ場をもつための具体的な方法を国内製作のCIE映画によって示唆してもらいたい、と望んでいたことを示している。また後半では、脚本がCIEによって検討され、改善箇所が指摘されたことが示されている。

さて、『明るい家庭生活』の脚本は、ウィリアムソンやジャドソンの指導を受けて4月上旬には完成し、撮影も順調に進んだようである。4月22日には粗編集

されたフィルムが制作者ナカイの手でジャドソンに届けられた。粗編集の『明るい家庭生活』は、ジャドソンからカメラワークの修正を指示されたものの基本的には優れた作品であることが認められた。そして、修正されたフィルムは、約2週間後の5月5日にジャドソンとウィリアムソンの点検を受けた。ウィリアムソンは、台所の根本的な改善が顕著に分かるようにクローズアップを十分に行うようにと指摘した。その一方、学校と家庭の両方の状況をリアルに表現していることに対してとても喜んだ⁶⁾。

『明るい家庭生活』はCIEが日本で制作した数少ない教育映画の中の1本であったが、以上に述べたように、ウィリアムソンが台所改善を日本社会の重要な問題であると見做していたことに加えて、ホームプロジェクトという新しい指導方法を全国の家庭科関係者に知らしめる必要性を強く認識していたこと、そして何にも増して、実際に映画制作の企画書をCIEに提出したことが映画化への決定的な要因となったといえる。

II. 『明るい家庭生活』の映像上の特徴

USIS 映画目録にも記されているように、CIE 教育映画『明るい家庭生活』には、日本語版に加えて英語版が制作されている⁷⁾。

日本語版の完全な『明るい家庭生活』は未発見であるが、冒頭のタイトル及び最初の1シーンのみを削除したフィルムが大阪の映像制作会社に残されている。また英語版は、完全なフィルムがアメリカ国立公文書館に保管されており、双方ともビデオテープに変換したものを研究用として提供してもらうことができた。本研究においては、この2つのビデオテープを再生して、脚本を起こすとともに映像を分析して、『明るい家庭生活』の映像上の特徴を見出した。

なお、写真1は、英語版『明るい家庭生活』(タイトル: FOR A BRIGHT HOME LIFE) の主要な画面をプリントアウトしたものである。また、表1は『家庭科教育 26巻5号』(家政教育社, 1952, pp.48-53) に掲載された『明るい家庭生活』の脚本を修正にして、同映画に極めて忠実な脚本としたものである。表2は、写真1の諸画面と表1の脚本を対比させたものである。

さて、『明るい家庭生活』の映像上の特徴は次の5点に集約できる。

第一点目は、新しい時代を象徴する映像と古い因習や封建性の所産を象徴する映像との対比を通して、家庭生活の近未来像を提案していることである。すなわち、画面(3)~(6)では、女子学生、婦人警官、婦人代議士、国会議事堂を映して、女性が男性と同等の権利

を有する新時代が到来したことを示している。一方、画面(7)~(9)では、依然、主婦が旧来の方法で掃除、洗濯、裁縫に多くの時間を費やしていることを暗示している。それではもう一つの重要かつ長時間を要する家事である台所仕事はどうか。画面(10)と(11)は、都会の小住宅の台所の不便さを啓子(都市に住む高校生)と母が台所で衝突するという場面で象徴している。次に、画面(12)~(17)は、農家の台所が非能率的で、主婦の多くのエネルギーと時間が浪費されていることを、光子(農村に住む高校生)の母が井戸で水を汲むことから始めてカマドに鍋を仕掛けるまでの動作を追うことによって、視覚的に示している。このような昔ながらの台所が、ホームプロジェクトによって能率的かつ衛生的なものに変化したことが映画の後半部分で描かれている。すなわち、啓子の家の台所は画面(47)と(48)のように使いやすいように整理され、板の間と土間を上がり下がりしなくてもよいようにコンロ等の配置替えをしたため、動線が短くなり、能率的になった。また、光子の家の台所は窓がついて明るくなり、さらに水は外から引き込まれ、水瓶、流し台、改良カマドが直列に配置されるとともに、食器や食物の収納も工夫されたことが示されている(画面(53)~(60)、(62)~(65))。新旧の対比は、これのみならず、台所改善に対する光子の祖母の態度の変化にも象徴的に示されている。古い習慣を捨てようとしぬい祖母が水瓶の移動を制したのが画面(42)であり、画面場面(45)と(46)は、家族の一生懸命な姿を見て、こだわりを捨て、光子たちに協力しようと水瓶を動かそうとする光景を映している。

第二点目は、家庭生活の中に改善すべき問題を見出し、それを解決する方法を考えて、教師や家族、また仲間の協力を得ながら自主的に活動を行い、問題の解決を図ってより良き生活を築くという、ホームプロジェクトの方法が啓子と光子の行動を通して明確に描かれていることである。これは脚本を読んでも分かることではあるが、映画ではそれを視覚的に知ることができる。画面(19)~(22)で示された生徒が主体となって行われている家庭科の授業、画面(27)と(28)に示されたホームプロジェクトの実施に当たって、家族への理解と協力を得る様子、画面(29)と(39)の教師の指導の様子、画面(30)~(34)の図書館での資料調査や展示された模範台所の調査、画面(35)~(38)の自宅の台所調査、画面(42)~(46)の光子と啓子の台所改善の実践、画面(49)~(52)のホームプロジェクト発表会での光子の報告、画面(61)~(65)の近所の人々を招いて、改善台所を紹介する光子の姿がそれである。

第三点目は、ホームプロジェクトを通して、よき家

表 1. CIE 教育映画「明るい家庭生活」の脚本

<p style="text-align: center;">1 プロローグ</p> <p>1 大学の構内 教室へ入って行く多くの男子学生に混ってさっ爽と歩いてゆく女子学生。</p> <p>2 青空の下で、交通整理をしている婦人警官。</p> <p>3 国会で演説をしている婦人代議士。</p> <p>4 すべてを象徴するかのよう、肅然とそびえる国会議事堂。日本国憲法の制定により、女性は解放されて、選挙権を獲得し、婚姻等において、男性と法的に平等になった。</p> <p>アナ 戦後、日本の女性は男子と全く同等の権利を持つようになりました。戦後日本の復興は着々と進んで、もう今では食物や衣類にはほとんど不自由しくなくなりました。</p> <p style="text-align: center;">2 ある小都会の住宅（啓子の家）</p> <p>1 啓子の母が、ホウキとハタキでバタバタ座敷を掃いている。</p> <p>2 しやがみこんでお洗濯をしている啓子の母。</p> <p>3 暗い電灯の下でつゞりものを展げた啓子の母。</p> <p>アナ しかし大抵の家ではお台所は依然として非能率的で、そのためにどれだけ主婦が無駄な時間や労力を費やしていることでしょうか。</p> <p>4 狭く雑然とした台所。炭薪が土間に積んである。米、粉、外米等袋にいれた食糧が雑然とおいてある。</p> <p>5 食事の済んだ茶わん類を重ねて、啓子の母が台所へ運んで来て流しへおく。続いて啓子（女学生）がやはり茶わん類を運んでくる。再び茶の間へ引返そうとする啓子の母に啓子が衝突する。茶わん類が落ちてこわれる。</p> <p style="text-align: center;">3 前庭のある農家の全景（光子の家）</p> <p>1 庭の井戸で光子の母が水を汲んでいる。光子の母、重そうに両手に木の桶を持って家に入る。</p> <p>アナ お台所の問題は都会でも、田舎でも同じです。たいして費用もかからないでちょっとした工夫だけで大いに時間や労力の無駄を省けるのに、台所の道具なども日頃不便と思いつながら元来のしきたりどおり、雑然と置かれている家が多いようです。</p> <p style="text-align: center;">4 同 土 間</p> <p>1 入ってきた光子の母、汲んできた水を入れた。鍋を取ってきてしやがみで水瓶の水を入れる。水の入った鍋を土間の片隅にあるカマドにかける。</p> <p>2 薪を取るために、土間を出て納屋に行く。</p> <p style="text-align: center;">5 同家の南側</p> <p>1 納屋の裏手へ廻った母、薪の積んであるところへ来て薪をとる。</p> <p style="text-align: center;">6 同 土 間</p> <p>1 薪を持つてきた母、カマドに薪をさし込み、火をつけようとする。マッチを取りに座敷に上がる。</p> <p>2 光子が自転車に乗って学校から帰ってくる。</p> <p>3 母、疲れた様子で、土間の薪の上に腰を下し、ため息をつく。</p> <p>光子 「ただいま。」</p> <p>母 「おかえり。」</p> <p>光子 「あら、お母さんどうしたの。随分顔色が悪いわ。あ、おばあちゃん、ただいま。大丈夫、お母さん。」</p> <p>母 「大丈夫。大したことはないよ。」</p> <p style="text-align: center;">7 学校の教室、家庭科の時間</p> <p>1 女子生徒が次々に、東京都立南多摩高等学校に入っている。</p> <p>2 家庭科の教室。黒板に「台所の改善」と書いてある。</p> <p>3 生徒が議長になっている。生徒たちからさかんに意見が述べられている。先生が傍聴の様子で傾聴している。</p> <p>アナ 家庭科の目的は、生徒が学校で習得したことを元として、家庭生活の改善向上のために研究、考案したことを実際に行うこととあります。生徒たちは家庭科の授業を通じて自分たちの家庭生活には改善すべき点のたくさんあることを知っています。そして自分の家のお台所の改善をホームプロジェクトとして取り上げる生徒が少なくありません。</p> <p>4 生徒が手を挙げる。</p> <p>議長 「はい、渋谷さん。」</p> <p>渋谷 「うちでは流しがこんなに低いので、ちょっと洗ひ物が多い時など腰が痛くなってしまう。」</p> <p>5 啓子が活発に手をあげる。</p> <p>議長 「はい、田崎さん。」</p> <p>6 啓子、立ちあがって発表する。</p> <p>啓子 「私の家のお台所には、棚というものがほとんど無く、何でも積み重ねてあります。お皿一枚取るのに、その上に乗っている沢山の小鉢や皿を取り除かねばなりません。不便で、能率的ではありません。」</p> <p style="text-align: center;">8 啓子の家の台所</p> <p>1 一坪ばかりの台所。食糧袋が雑然とおかれ場所をとっている。鍋蓋の類がごったにおかれている。</p> <p>2 啓子の母が、小鉢・皿をとり、一番下の皿をとる。</p> <p style="text-align: center;">9 教 室</p> <p>1 光子が手をあげる。</p> <p>光子 「はい。」</p> <p>議長 「はい、西村さん。」</p> <p>2 光子が立って発表する。</p> <p style="text-align: center;">10 光子の家の土間</p> <p>1 光子の家。鶏が餌をついばみながら、土間のしきいを出たり入ったりしている。台所の外側が湿気ている。</p> <p>2 土間のカマドは低く、しやがみないと作業ができない。カマドの周囲にはいろいろな道具が雑然と置かれている。</p> <p>光子 「私の家は農家なので台所が土間にあり、鶏なんか平気で出たり入ったりして、外の不潔なものをそのまま家の中へ持ち込んできます。」</p> <p style="text-align: center;">11 教 室</p> <p>1 議長が今までの意見をメモを見ながらまとめる。</p> <p>議長 「つまり衛生的でないというのですね。いろいろとご意見ができました。台所と御不潔が近かったり、排水が悪く、流し元がいつもジメジメし</p>	<p>ていたり、ゴミ箱の処理が悪いのでハエが多かったり、衛生的でないということ、もう一つ能率的でないということが大体の意見でした。材料入れ、流し、調理台、カマドなどの配置の具合が悪いのですね。」</p> <p style="text-align: center;">12 教 室</p> <p>1 先生を囲んで、ずらりと生徒が並んで腰かけている。</p> <p>アナ 生徒たちは、各家庭の実際の必要にも応じ、しかも自分の個人的興味に合ったものをホームプロジェクトとして選定します。</p> <p>ある生徒は、自分のワンピースを妹のに作り変えることに決めました。また、物置や押し入れの最も効果的な研究を取り上げる生徒もあります。</p> <p>2 先生がホームプロジェクトの一覧表に生徒の選んだテーマを書き入れている。</p> <p>3 光子と啓子が、先生に改善計画について相談している。</p> <p>アナ 光子さんと啓子さんは、自分のうちのお台所の改善をホームプロジェクトに選びました。</p> <p>4 黒板に次の文字が書かれている。</p> <p>1 題目 2 目的 3 選択理由 4 実施計画 5 予定時間 6 費用 7 進行状態 8 総括 9 評価</p> <p style="text-align: center;">13 光子の家の台所</p> <p>1 土間と板の間を上り下りしてみせる光子。光子は改善点を家族に向かって説明する。</p> <p>光子 「上がったり、下りたり、上がったり、下りたり、第一これが非能率的なと余計な労働の原因よ。だから流しも水瓶もカマドもみんなまとめて、あそこに置いておくよ。そうすれば、お米でも何でもすぐに洗えるし、それからここにそれを切り取り刻んだりする調理台。このカマドだって、もう少し高くすれば便利じゃないかしら。」</p> <p>2 光子、板の間の上って、何か熱心に工作をしている弟の側を通り、一隅へ行き説明を続ける。</p> <p>光子 「ゴチャゴチャした台所のお仕事でも順序がよければ、ずいぶん能率があがると思うのよ、お母さん。薪やいろいろな材料を納屋まで取りに行くのは大変だから、ここに箱と棚を作って置いてくよ。次には流し、水ガメはあそこに置いておくよ。そうすれば、お米でも何でもすぐに洗えるし、それからここにそれを切り取り刻んだりする調理台。このカマドだって、もう少し高くすれば便利じゃないかしら。」</p> <p>3 母、いりりに坐っている祖母と父をチラリと見る。</p> <p>母 「そりゃ、そうした方が便利だろうと思うけど。」</p> <p>4 光子、父に声をかける。</p> <p>光子 「便利だと分かっていたら、便利ないようにした方がいいと思うわ。ねえ、お父さん。」</p> <p>父 「う、うん…。」</p> <p>5 水の扱いについて弟と考える。</p> <p>弟 「だけどやっぱり水は外から運ばなきゃならないね、姉ちゃん。」</p> <p>光子 「そうね、ここに井戸を掘るなんて大変だし。」</p> <p>弟 「いい考えがあるんだ。3べん回ってワントって言ったら教えてやるよ。」</p> <p>光子 「何よ。」</p> <p>弟 「井戸から水瓶まで太い竹で樋を作るんだ。」</p> <p>光子 「ああ、そりゃいいわね。そしたら運ばなくてもすむし、お母さん、そうしようよ。」</p> <p>弟 「ごまかしちゃするぞ、姉ちゃん。3べん回ってワントって。」</p> <p>光子 「3べん回って、ワ、ワ、ワ。」</p> <p>6 光子、父、母、弟笑う。祖母だけはムツリ、いりりの灰を火ばしでかき廻している。</p> <p style="text-align: center;">14 啓子の家の台所</p> <p>1 啓子と母が台所の改善について話している。</p> <p>啓子 「それで、流しの前に棚を作って、釘を一ぱい打って、お鍋をズラッと掛けたらどうかしら、お母さん。」</p> <p>母 「便利ね。フキン掛けはそこにして、タワシ掛けをそこにするのね。」</p> <p>啓子 「お米や粉はネズミにかじられないように石油カンを買ってきてキッチンとここに並べましょうよ。」</p> <p>母 「ゴミ箱をすぐ台所の外へ持ってきて、ここから捨てられるようにしたらいいわね。」</p> <p>啓子 「台所にも小さな椅子が一つぐらいあってもいいわね。ちょっと腰かけてジャガイモの皮をむいたり、休んだり。」</p> <p>母 「啓子ちゃんはまだ休むことばかり考えているのね。」</p> <p>2 二人は顔を見合せて笑う。</p> <p style="text-align: center;">15 教室と図書館</p> <p>1 啓子と光子は先生から実習室の台所設備の説明を受けている。</p> <p>アナ 光子さんと啓子さんは、まず、先生から基本的指導を受け、いよいよお台所の改善にとりかかることになりました。</p> <p>2 光子と啓子、図書館で図解の台所の本を見ている。</p> <p>アナ 二人は最寄りの図書館へ行って調査を始めました。そこにある参考資料に役に立ちそうなものは全部調べました。</p> <p>3 図書館で見つけた新しい台所を提案した書籍と写真が出される。</p> <p style="text-align: center;">16 進駐軍家庭の台所</p> <p>1 能率的に配置された流し、調理台、コンロ、食卓、冷蔵庫、通風孔等、アメリカ人の台所を感心して見学している光子と啓子。</p> <p>アナ 幸い先生のお知り合いにアメリカ人がいらっしやったので、先生の紹介でそのお家を訪問し、アメリカの家庭のお台所を見せて頂くことができました。二人は大きな明るい窓、いろいろ便利な台所用品や、その整然として能率的な配置などをよく研究してノートにとりました。</p> <p style="text-align: center;">17 台所改善協会模範台所の展示</p> <p>1 デパートの模範台所を見学し、研究している光子と啓子。</p> <p>アナ それから百貨店で模範台所も見学しました。もちろん二人とも自分たちの台所をいっぺんにこのように改装することはできませんが、これらの立派な理想的なお台所を見て得た貴重なヒントを自分たちの台所改善に活用することはできるし、これが大切なことなのです。</p> <p style="text-align: center;">18 光子の家の台所</p> <p>1 カマドを中心に、台所の改善点を研究している光子。</p> <p style="text-align: center;">19 啓子の家の台所</p> <p>1 土間と板の間を上り下りして改善を研究している啓子。</p> <p>2 周囲を見回し、考え込む啓子。</p>
--	---

20 教室

- アナ 光子さんと啓子さんのお台所の改善計画もやっと出来上がりましたので先生のところに持って行って見て頂きます。
- 1 光子と啓子の台所改善図を前に、先生が2人に指導している。
- 先生 「ふたりとも大変緻密で、実際的でよく出来ています。けれど、なぜか西村さんも田崎さんも気のついていない大事な欠点がありますね。」
- 2 先生の次の言葉を待つ光子と啓子。
- 先生 「それは採光、つまり明かりとりの点です。暗い台所はほこりやごみが目立たないので自然掃除もゆきとどかず、どうしても不潔になりがちなのです。また暗いとテキパキ働けません。そして台所が湿気ていると不衛生なだけでなく、建物や家具が早くいたみます。ふたりとも、明かりとりの窓と空気の流通ということをもう一度考える必要がありますね。」
- 3 しまったという顔の光子。なるほどという顔の啓子。
- 4 書き直してきた啓子と光子の台所設計図面。先生が認め印を押す。

21 光子の家の庭

- 1 光子が自転車から帰ってくる。一方を見てビックリする。井戸端で弟が竹の樋を作っているのがある。
- 光子 「あら、もうこしらえたの。」
- 弟 「うん、丁度いいや。後で土間の水瓶を上に運ぶの手伝ってよ。僕一人じゃ駄目なんだ。」
- 光子 「うん、いいわ。すぐやりましょう。」

22 土間

- 1 光子と弟が水瓶を運ぼうと手をかける。
- 光子 「うーん、おもたいわ。」
- 弟 「姉ちゃん、もっと力を入れて。」
- 光子 「なかなか持ち上がらないわ。」
- 2 祖母がやってくる。
- 祖母 「光子や。その水瓶を動かしてはいけません。」
- 3 2人びっくりして、手を離し、見ると、祖母が立っている。
- 祖母 「百姓は水が命です。その水瓶は長い間ここに置いてあって家中一番良い置場所なんです。それを動かすことはありません。」
- (とキッパリ言って去る)
- 4 ぼう然と見送る光子、弟。

23 いろいろばた

- 1 ノートを持った光子が、台所改善計画の説明している。父、母、弟が聞いている。
- 光子 「こういうようにしたら便利だと思うのよ。」
- 父 「そりゃまあ、便利にすることはいいが、光子の計画でどのくらいの費用がかかるんだね。」
- 弟 「みんな僕と姉ちゃんがやるんだ。お父さん、だから、ちょっとした木材代と釘代で、ちゃんと計画を実行してみせるつもりだよ。」
- 父 「でもお前じゃ、そのような窓を作ることは出来まい。」
- 弟 「うん、窓だけは駄目だ。大工さんじゃなくちゃ。」
- 光子 「ね、お父さん、窓も作れないかしら。」
- 父 「作って作れないこともないが、窓を作ればガラス戸もいることだし、まあ、それはあと廻しにして、ふたりでできる程度で、費用をかけないでやってもらうんだな。」
- 光子 「え、できるわね。」

24 光子の家の庭

- 1 弟が板に鉋をかけている。光子が図面を持ってくる。
- 光子 「ねえ、それがきたら、これを作って頂戴。」
- 弟 「なんだい、これ。」
- 光子 「お皿を置いてとくのよ。お皿を重ねておくと取るとき不便でしょ。だから立てて置いてくれるようにしたいの。」
- 弟 「うん、こんなの訳ないよ。」

25 光子の家の台所

- 1 弟がカマドの煙出しをよくするため煙突をとりつけている。光子が側でそれを見つめている。
- 2 台所に棚をつけている弟。
- 3 光子と弟で大きな戸棚を運んでくる。
- 弟 「いいかい、この位で。」
- 光子 「いいわ、これいなら楽に働けるわ。」
- 4 樋を取り付けようとしている光子と弟。光子、竹を見ながら
- 光子 「でも樋は、ほんとにはトタンで作りたいわ。」
- 弟 「そうーべんに何もかも欲張ったって駄目だよ、姉ちゃん。まあ当分これで我慢するさね。」

26 光子の家の庭

- 1 光子と弟が横手へ廻る。来てびっくりする。窓を作るため外壁が切り取られている。母がそれを手で支えて持っている。父がハチマキをしてにこにこしている。
- 光子 「あら。」
- 母 「あまりお前たちが熱心なので、お父さんが窓を作って下さるんだよ。」
- 光子 「まあ。」(喜びに輝くふたり)
- 父 (笑いながら) 「お父さんだけが、お母さんを虐待していると思われても困るからな。」
- 弟 「よかったね。姉ちゃん。」
- 母 「私たちが負わずに、早く土間と台所にしきりをして、鶏なんか来ないようにしなくちゃね。」
- 父 「ああそうか。じゃあひとつ頼むよ。大仕事だな。」
- 2 光子、弟、母の三人土間へ入る。

27 土間

- 1 祖母が、一人で水瓶を動かそうとしているが動かない。
- 祖母 「うんうん、うんしょ。」
- 2 光子、弟、母がかけ込んで来る。
- 光子 「あら、お祖母ちゃん、どうしたの。」
- 祖母 「きまつてるじゃないかね。この水瓶を向うへ運ぶんだよ。」
- 3 びっくりする光子と弟。
- 母 「なんだね、お前たち、一番重いものを持たせて。馬鹿みたいに突立っていないで早くお手伝いしなさい。」
- 光子 「よいしょよいしょ、もう少し。」

- 4 祖母の真意が判って、光子と弟、顔見合せ、喜び勇んで水瓶に飛びつく。水瓶を運ぶ三人。祖母も手を借す。

28 啓子の家の台所

- 1 啓子の家の台所。棚が作られ、棚の前に鍋が沢山つってある。米、粉、麦と寄かれた石油カンがキッチンと置いてある。流しの側に、外のゴミ箱に通じたゴミの受け口がある。整理されて広くなった台所小さな椅子に腰かけて、満足の様子で台所を見渡している啓子。
- アナ 啓子の家の台所は十分な研究と周到な計画によって見違えるほど整然とした便利なお台所になりました。ご覧のとおり、あまり費用もかけないで、明るく空気の流通もよくなりました。カマドもこの位高くすれば、もう一丈腰をかかめる必要もなく、それに流しからも極めて働きやすい位置にあります。流しには水道も出るようになりました。新しく作った窓からは十分な光りも採れます。茶ダンスは害虫やネズミを防ぐように、食料は全て蓋付きの缶に納めます。啓子は完成した台所を見て、努力のしがいがあったと満足しています。

29 学校の講堂

- 1 学校の講堂には、ギッシリ父兄母が詰めかけて、光子のホームプロジェクトの発表を待っている。
- 先生 「では、ただ今より、3年1組西村光子の台所の改善を発表致します。」
- アナ このようにホームプロジェクトが成功した場合には、その報告を行うことは最も大切なことです。こうすることによって、光子や啓子のような熱心な生徒の工夫を多くの人たちにも役立たせることができるのです。
- 2 台所改善の大きな図面を後に演壇で光子が報告している。岩崎校長や仙波千代教諭ら、南多摩高校の先生も椅子に座って聞いている。
- 光子 「ただ今から、私のいたしましたホームプロジェクトについて発表いたします。私の家は農家なので台所が土間にあり、その上薄暗く、ほこりやゴミが立ち易くて不潔になりがちでございまして。その上、ただ広いばかりで流しやカマドなどの配置が悪く不便で能率が上がりませんので、これらの点を改良したいと先生や家族と相談して、いろいろ工夫した結果、わずかな費用で非常に働きやすい台所にすることができました。」
- 3 改善された光子の家の台所。明るいガラス窓、煙突を付けて位置を高くしたカマド、井戸から竹の樋を伝わって流れてくる水、シンク部分を金属で被った調理台兼流し台、皿立て、保管用の缶、カマドの横に置いた薪が見える。
- 光子 「改装したお台所では、水は井戸から竹の樋を通じてこのように入ってきます。流しは背の高さに応じて上げましたから、腰を曲げなくてもすみます。お皿は縦に並べますと取るとき便利です。お米や粉は缶に入れて。薪はカマドの近いところに置き手を伸ばせば取れるようにいたします。大きな窓ができたのですっきり明るくなりました。その結果、毎日、お食事もお楽しみできるようになりました。」
- 4 聴衆のさかんな拍手。

30 光子の家の台所

- 1 光子の家の改善した台所の見学に近所の人々が大勢訪れている。
- アナ 光子は近所の人を招待して、改善した点を説明しました。
- 光子 「電灯をここへ引張ってきて、お勝手元を明るくし、机を土間に置いて、すぐ皆揃ってお食事ができるようにしました。それから戸棚をここへ運んで来ました。戸棚の中もきちんと整理してお皿なども重ねないで、こういうふうにして置きます。おソースやお醤油のビンもこういうふうにして置きます。それから、お米などもこういうふうにしておくと便利です。」
- 2 光子は、いかに使いやすくなったを実際に動いて見せる。材料置場からネギを取る。すぐ洗う。刻む。鍋に入れる。火にかける。ほとんど歩かなくてすむ。
- 光子 「お野菜もここから取ればすぐ流しで洗えるし、洗ったらこれを切ってすぐお鍋に入れることができます。薪はここに置いてあります。このカマドもこの位ならしゃがまなくてもすぐ燃やせます。全て駄な労力を使わないで、順序よくお台所の仕事が能率的にできます。」

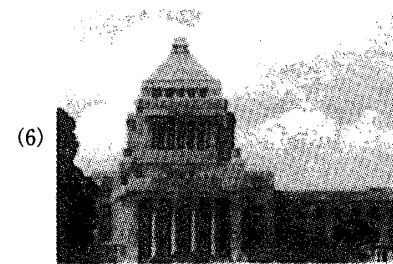
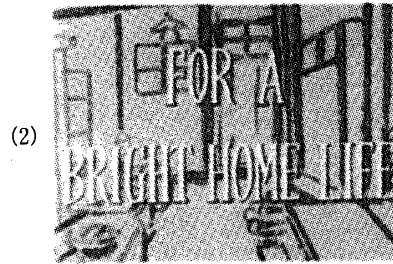
31 光子の家の台所を啓子が訪問

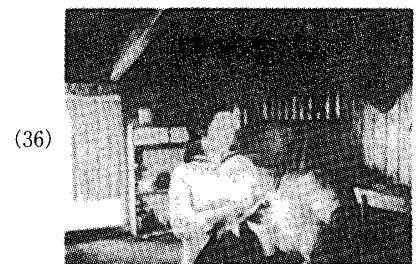
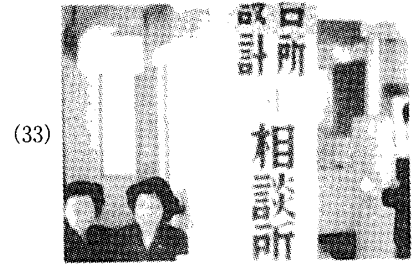
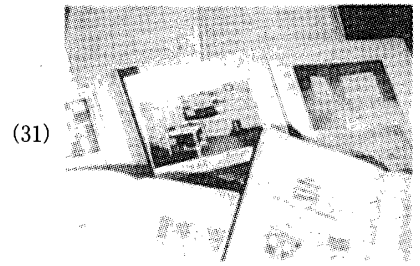
- 1 改善された台所で、弟と光子が茶碗を洗っているところへ、啓子がやって来る。
- 啓子 「こんにちは。」
- 光子 「あら、いらっしゃい。啓子さん。」
- 2 啓子は改善された光子の家の台所を興味深そうに見回している。得意そうに説明をしている光子。
- アナ みなさん、よく考えてやれば大した費用もいらずに、お台所を改善することができます。ごらんのように、男の子さえ喜んでお手伝いするようになるでしょう。光子さんや啓子さんをお手本に、皆さんも自家のお台所をもっと働きよい楽しいところにして、家庭生活を明るくするのはいかがですか。(おわり)

(CIE 教育映画『明るい家庭生活』並びに『FOR A BRIGHT HOME LIFE』及び『家庭科教育』第26巻5号(1952, pp.48-53) から筆者作成。)

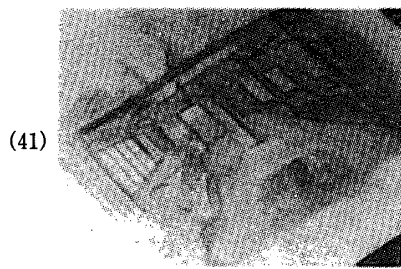
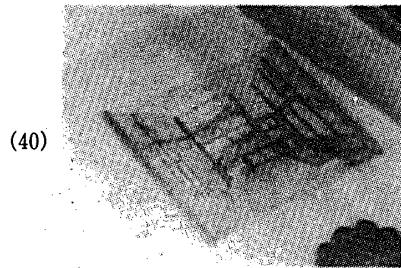
族関係や人間関係を築くことが可能になることを映像がリアルに示していることである。画面(42)~(46)は光子のホームプロジェクトが家族の協力を得て進展していることを示したものである。当初、ホームプロジェクトに懐疑的であった父親が笑顔で窓を作ることを告げた場面は印象深い(画面(44))。家族が一緒になって台所改善に取り組むという設定は、家事が女性だけの問題ではないという認識を視聴者にもたらすことを狙ったものであろう。さらに、映画の最後のシーンには、台所で茶碗洗いをしている光子の弟が登場している(画面(66))。これは、男子にも家庭科を学ばせよ

写真1. CIE 教育映画『FOR A BRIGHT HOME LIFE (明るい家庭生活)』の画面





柴 静子





(アメリカ国立公文書館所蔵の“FOR A BRIGHT HOME LIFE” から筆者作成)

表 2. 『明るい家庭生活』の映像画面と脚本の対応

(1) CIE配給	(12) 3 -1	(23) 10 -1	(34) 17 -1	(45) 27 -2	(56) 29 -3
(2) タイトル	(13) 4 -1	(24) 10 -2	(35) 18 -1	(46) 27 -4	(57) 29 -3
(3) 1 -1	(14) 4 -1	(25) 12 4	(36) 18 -1	(47) 28 -1	(58) 29 -3
(4) 1 -2	(15) 5 -1	(26) 12 -4	(37) 19 -1	(48) 28 -1	(59) 29 -3
(5) 1 -3	(16) 6 -1	(27) 13 -1	(38) 19 -2	(49) 29 -2	(60) 29 -3
(6) 1 -4	(17) 6 -1	(28) 14 -1	(39) 20 -2	(50) 29 -2	(61) 30 -1
(7) 2 -1	(18) 7 -1	(29) 15 -1	(40) 20 -4	(51) 29 -2	(62) 30 -1
(8) 2 -2	(19) 7 -2	(30) 15 -2	(41) 20 -4	(52) 29 -2	(63) 30 -2
(9) 2 -3	(20) 7 -4	(31) 15 -3	(42) 22 -1	(53) 29 -3	(64) 30 -2
(10) 2 -4	(21) 7 -6	(32) 16 -1	(43) 23 -1	(54) 29 -3	(65) 30 -2
(11) 2 -5	(22) 9 -2	(33) 17 -1	(44) 26 -1	(55) 29 -3	(66) 31 -2

(注：両括弧の数字は写真1の映像画面を示し、またハイフンで繋がれた数字は表1の脚本の場面を示している。例えば、映像画面(1)は、脚本の1-1、すなわち「1 プロローグ」の「1 大学構内」に対応している。)

というウィリアムソンからのメッセージと受け止めることができる。よき家庭を建設するためには、男子が家事に参加することが欠かせないということをウィリアムソンは映像を通して伝えたといえる。

第四点目は、農家の台所改善は高等学校家庭科のホームプロジェクトの研究課題であるばかりでなく、農林省が主導する生活改善計画の中心を占める重要な課題であったため、映画には農林省農業改良局の主張が盛り込まれていることである。同局は、1949（昭和24）年に『明るい働きよい台所』というパンフレットを発行して、台所改善の具体的方法を農家に示した。

『明るい家庭生活』中の改善された農家の台所は、このパンフレットの内容がそのまま移行されたように見える。すなわち画面(55)(63)の流し台はシンク部分を金属で被い、高さは身長約半分としていること、画面(53)(59)(60)(64)(65)のカマドは高さを上げて火棚をつくり、煙突をつけていること、画面(61)では台所にテーブルを置いて食事ができるようにしていることがそれである。また、画面(41)の光子の書いた台所設計図や画面(53)の改良カマドそして画面(55)の流し台は、同パンフレットに掲載された改善した台所見取り図やカマドそして流し台と極めて似ている。さらにはパンフレットに記された台所改善のポイントは、1.

「流し、かまど、調理台をまず改善しよう」、2.「窓を大きく明けよう」、3.「作業場や畜舎との間に仕切りをつけよう」、4.「設備や器具類をできるだけそなえ、順序よく配列しよう」という4点であったが、2.においては、「暗い台所は、ほこりやごみが目立たないから、自然掃除もゆきとどかず、どうしても不潔になります。風通しもわるく、しつけてはいきんがふえ、建物や家具も早くいたみます。そのうえ手もとが暗くて、てきぱきと働けません。」⁸⁾とあり、『明るい家庭生活』中の教師の言葉（脚本20-2）と極めて一致している。

第五点目は、『明るい家庭生活』で主張された台所改善の内容は、1932（昭和7）年に文部省が製作した無声の教育映画『臺所の改善』⁹⁾で打ち出されたものと多くの類似点をもつ一方で、改善の目的と方法には大きな差異があることである。文部省製作の同映画においては、最終部分に、「臺所の改良はやがては国民の能率を増進し、そこに新日本の明るさが生れる」という文字が大写しされる。この映画の全編を貫いているのは、このように、台所を明るく使いよく清潔にすることによって、健康で和やかな理想の家庭をつくることができ、延いては輝かしい新生日本を迎えることができるという主張である。『臺所の改善』が製作された前年の1931（昭和6）年には満州事変が勃発した。この映画には、次第に増幅していく国民の戦争への不

安や慢性的な経済不況による窮屈な衣・食・住生活を、改善された台所を中心に築かれる明るい家庭という幻想で包み隠そうとする政治上の意図が窺われる。一方、

『明るい家庭生活』では、「台所の改善により主婦の仕事は軽くなり、教養をたかめることができる。こうした家庭から平和な民主的なよい社会が生まれる。」という考え方が主張されている。すなわち、女性を長時間にわたる繁雑な家事から開放し、教養を高めて、民主的な家庭を建設させることによって、民主日本を樹立させるための台所改善と考えられたのである。また、台所の改善方法としては、『臺所の改善』においては「心掛けさへあれば廃物が手細工で立派な整理棚ともなる」（字幕）という具合に、廃物利用と精神主義が特徴的であるが、『明るい家庭生活』においては、女子高校生の家庭科のホームプロジェクトが台所改善の具体的な方法として克明に示されている。一方、改善の内容としては、窓を大きく取って採光と通風を図ること並びに整理棚を作り能率化することが2つの映画の共通点である。これに加えて『明るい家庭生活』では、農家の台所設備の改善として、改良カマドの設置と食卓の据え付けが提案され、煙の防止、動作姿勢の適正化、動線の短縮が目指されていた。

おわりに

『明るい家庭生活』は、多数の日本人に視聴され、さらに中等教育研究集会等においても映写された。このようにCIEは、台所改善という焦眉の問題を取り上げた優れた教育映画の制作と配給を通して、家庭や社会の民主化と新教育の普及を図ろうとした。本研究は、この映画の脚本や映像の秀逸さを実証したものである。

【注】

- 1) 柴静子「占領下の日本における家庭科教育の成立と展開（II）— CIE 教育映画『明るい家庭生活』の製作」『教育学研究紀要（第2部）』第41巻、1996。
- 2) “Promotion”, GHQ/SCAP, CIE Records, Box no.5757.
- 3) “400.12: PR's Oizumi Studio Co., Ltd”, GHQ/SCAP, CIE Records, Box no.5305.
- 4) 柴静子、前掲書、pp.374-375.
- 5) “337: Conference Reports, Education Division-Judson”, GHQ/SCAP, CIE Records, Box no.5362.
- 6) 柴静子、前掲書、pp.5-6.
- 7) 『USIS 映画目録 1959』、1959、p.4.
- 8) 農林省農業改良局発行のパンフレット（1949年）。
- 9) 国立近代美術館フィルムセンター所蔵映画。
（文部科学省科学研究費補助研究、課題番号13680307）